進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年 10 月 28 日
● 事　業　名　：　萩之茶屋地域ひと・まち・いきいきリカバリー事業
● 資金分配団体　：　ヒューファイナンスおおさか
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人　釜ヶ崎支援機構

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況
地域と医療をつなぐ居場所・相談窓口ができる	●実施検討会議での諮問	●いきいき百歳体操初回開催	令和 2 年 6 月	新型コロナ感染拡大の影響で当初の計画より遅れましたが、令和 3 年 11 月より開催することができました。 開催にあたっては地域の医療機関である大阪社会医療センター、また西成区役所、西成区社会福祉協議会、地域ボランティアとも連携し公営住宅住民の健康問題のみにとどまらず、生活相談等種々の相談に対応できる体制を整えました。そのことにより、住民の健康促進や孤立防止に必要な社会的つながりが徐々に形成されつつあります。体操は令和 4 年 9 月 15 日時点で 16 回開催し、公営住宅の住民延べ 76 名が参加するに至っています。	2

		●健康教室の初回開催	令和 2 年 7 月	令和 4 年 10 月 15 日に初回を開催することができました。講師に前述の大阪社会医療センター副医院長を招き、呼吸器系の病気の未然防止をテーマにお話を頂きました。会場は公営住宅の集会場で開催、住民等 23 名が参加され熱心に話を聞かれていました。また WEB にて高齢者の利用が多い、あいりんシェルターにもライブで配信したところ１０名程度の利用者が関心深く視聴していました。 このことは、公営住宅の住民のとどまらず地域の公衆衛生に対して多大に寄与したものと考えています。	2
		●健康麻雀プログラムの初回開催	令和 2 年 8 月	新型コロナ感染拡大を受けて一旦計画の見直しを行いましたが、再度住民からの要望が高まり、再検討した結果、開催することに決定しました。令和 4 年 11 月より希望者で集まり、基礎的なルール等の学習会を行う予定です。また、プログラムの初回開催を 1 月に設定し準備を進めているところです。	3
		●ほっこり体操＆カフェの初回開催	令和 2 年 9 月	ほっこり体操については、当初予定していたものの体操という広義で百歳体操と重複することから、住民同士の交流という目的はそのままにし、別の企画実施に計画を変更しました。現在は住宅の清掃活動を、住宅住民と地域ボランティアで月 1 回実施しています。 また清掃活動後お茶をしながら、住民同士または地域ボランティアの方と交流を深めています。回を重ねるたびに住民どうし、または地域との結びつきが強くなっていると感じています。	4

結核健診を勧奨し就労意欲を助長する強力なツールを開発し実装する	●システム構築会議での諮問 ●大阪市福祉局ホームレス自立支援課、西成区結核対策担当と検討会での諮問 ●システムダウン時のリスクマネジメント会議での諮問	●ツールを実装し運用する	令和 3 年 2 月	2020 年 11 月～2022 年 8 月 24 日までのシステム登録者数は 750 名 に至りました。 その中で、実装したツールの効果につきましては、まずは結核健診を勧奨するシステムにおきましては当初は健診を勧奨するという計画でしたが、システムの登録カードを作成する際に結核健診の受診が必要という内容に計画が変わりました。 これまでシェルターを利用する際に利用者の個人情報を一切取らなかったこともあり、その際に利用者からのある程度の反発は覚悟していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大とも時期があい、反発なく受け入れらました。 結果、受診率 100%となり地域の公衆衛生上大いに寄与したと言えると考えています。 次に就労支援システムにおきましては、システム登録者 750 名の内、仕事を探している等の理由による就労情報の提供希望者が 295 名いました。 現在日々のシェルター利用者は約 160 名程度になりますが、シェルター利用者は日々変動しますので、概算ですが約 100 名の方がシェルターを利用しつつ仕事を探している状態となっています。そのような中、システムを活用し就労支援を行った結果を報告いたします。 ①いきいき清掃講座基礎コースの参加者募集に対して効果が認められました。システム導入後は現行の相談員からの推挙、ポスター掲示に加え、システムを使い就労情報提	1

				供希望者に直接届くように、受講者の募集を行いました。 　本講座は合計 14 回開催（内システム運用後 7 回開催）しています。 　通算の参加申込者はシェルター利用者以外を含めた全体でシステム運用前 83 人、システム運用後 58 人となっており、その内システムと関係するシェルター利用者はシステム運用前 14 名、システム運用後 13 名となりました。 　14 回目の開催となり、またコロナの影響もある中で参加希望者が縮小していましたが、シェルター利用者の参加は横ばいに推移しており、一定の支援に繋がったと言えます。 　また、システム運用後の清掃講座に参加されたシェルター利用者 13 名の内 6 名が弊機構の就労相談・就労支援を経たうえで、都市公園や公共施設の清掃管理業務や清掃会社への就労に繋がりました。 　このことはシェルターシステムの成果だと考えています。 ②お仕事マッチ（企業による求人ミニ説明会） 　コロナ感染拡大の影響で、期間中 2 回実施（令和 4 年 5 月、7 月）しました。 　システムにて開催告知を行った結果、10 名が参加され、内 3 名が説明会参加企業に就労が決まりました。 　次に当初の計画にはなかったですが、システムを使いワクチン接種の支援を行いました。その結果、令和 4 年 8 月末現在までに、371 名の方に接種希望の調査を行い、157	

				名の方からワクチン接種の支援（接種券発行、接種予約、本人確認証発行、予診票記入、接種証明預等）を受けたいという回答があり、必要な支援を行いました。 　システム実装前はシェルター利用者の個人情報やシェルター利用情報が皆無でしたが、実装後には把握・管理ができるようになり、ワクチン接種の支援ができるようになっていました。	
多様な生きづらさを抱えた人が集まれる居場所ができる。	●居場所こしらえおしゃべり会での諮問	●居場所こしらえおしゃべり 会の初回開催	令和２年5月	令和３年１２月に居場所こしらえプロジェクトチーム（ろーじもんず）を結成しました。その後、会合を必要数開催しています。令和４年９月現在、ホームページを立ち上げ、居場所と地域の情報を発信できるようになりました。また並行して居場所のリフォームを多様な困難を抱える当事者と行っています。令和４年７月より、リノベーション作業日を６日間設定、のべ１６人の方が参加しました。リノベの計画・立案、施工進捗確認、またリフォーム後居場所を開所、運営するにあたっての話し合いを鋭意進めているところです。	2
		●グループミーティングの初回開催	令和２年10月	居場所の開所後、開催予定としています。	3
		●ぐるぐる交流会の初回開催	令和２年10月	上述のグループミーティングを定着させた後に、状況を見据えながらになりますが、開催を予定しています。	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み

2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　　☐広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☑その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：システム等の機材関係に表示しています。
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 西成区社会福祉協議会公式フェイスブック→百歳体操の様子 テレビ東京　ガイアの夜明け（令和４年４月放映）→就労支援の様子 2.広報制作物等 百歳体操宣伝ポスター 弊機構公式 HP 3.報告書等 特になし 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 特になし

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

公営住宅住民から清掃活動後に提供されたおにぎりを
おいしそうにほおばる地域ボランティアの皆さんです。

公営住宅住民と地域が百歳体操で繋がりました。

公営住宅と地域医療を結ぶ健康教室を開催しました。

当事者を含めてみんなで居場所づくりをしました。